

地域にはばたく市民パワー！



ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2018年11月号(第121号)

発行責任者 佐藤 重松



長野県高山村 リンゴ収穫ボランティア (2018. 10. 15~17)

撮影 / 松崎 晃

第12期定期総会開催について

会長 佐藤 重松

「広場」10月号でお知らせしましたが第12期ところざわ倶楽部総会は11月20日に開催致します。総会では第11期の事業報告と決算及び第12期の方針、事業計画、予算について議案書に従って審議いたします。

昨年は「ところざわ倶楽部創立10周年の歩み」を記念誌としてまとめ、活動状況や実績、或いはサークルの特色などを網羅したものとなっており、これからの倶楽部の方向を示唆している記念誌でもあると思います。なかでも、記念誌巻頭の稲村前会長の言葉の中に示されています。それは昨年の「生涯学習シンポジウム」で早稲田大学教授加瀬先生の激励の言葉“ところざわ倶楽部はもう一段階上をめざすべきだ”をうけて、一段階上というのは“地域社

会貢献”がその一つではないか。そして、次の10年は、倶楽部の活動を市民の中に広げ、より地域とのつながりを強くし、会員の皆様が良き市民として生きいきと楽しく活動を続けられる“場”であり続けてほしい！と。会員の皆様も、この方向に賛同、支持をされていることと思います。

人生90年時代のシニアとして、“70、80働き盛りの心意気”で、“一日でもながく元気に！”ところざわ倶楽部の仲間や身近な地域の皆さんとの交流を絶やさぬ日常に、心して頂ければと思います。

その意味でも、第12期総会にご参加頂き、大いにところざわ倶楽部の明日の継承発展についてご提案頂き、懇親会では、テーブルを同期会として、日頃の情報交換などをまじえ、旧交をあたためる場となれば幸いです。

長野県高山村りんご農家ボランティア&観光旅行

所沢の自然と農業 松澤 正

「所沢の自然と農業」サークルでは、2011年頃より当サークルメンバーの友人の長野県りんご農家「宮川農園」からりんごを購入していました。

そのりんごが大変美味しく、お礼を兼ねて農園のお手伝いをしようということになり、2014年の春からスタートし、今年で4年目を迎えました。今回は、男性7名、女性5名の12名で、3台の車に分乗し、所沢を出発しました。



サンふじ

例年のボランティア活動は、春は「りんご花摘み」秋は「りんごの葉摘み・玉回しと収穫」と「ぶどうの樹の凍結防止用藁巻き」が主たる作業です。

これらは全て手作業で、農家にとっては大勢での応援は大助かりと喜んでお礼感謝されています。花摘みでは、初めて参加されたメンバーは、花を摘み過ぎて実がならないのではという不安も持ちながらの作業でしたが、それが見事に実っていることに感動していました。葉摘みは主に「サン

ふじ」のりんごの周りの葉を摘む作業、玉回しは若干りんごを回して日光が当たるようにする作業です。今回も回し過ぎて“どさっ”と落下、その度ごとに悲鳴が



葉摘み・玉回し開始

聞こえ落下の山となりました。まんべんなく赤く色付いていないと一級品にはならず、規格外（8割がはね出し）となり大半がジュースの原料となってしまうので、これも大切な作業の一つです。

作業が終わってからの楽しみは、近くに6か所ある温泉と夕食、最後の日の観光です。温泉では、紅葉を観ながらの七味温泉の露天風呂、北アルプスや北信五岳が一望できる小布施温泉「穴観音の湯」などは、作業後の疲れを癒す絶好の温泉です。食事は、朝食だけは宮川さんの奥様のお世話になり、女性陣のお手伝いで全員一緒に頂きましたが、昼食は高山村の「高山亭」で蕎麦料理、夕食は須坂市の旬菜古民家「ゆるり」、須坂迎賓館「三つ扇」で郷土料理に舌鼓を打ちながら満喫しました。



旬菜古民家「ゆるり」で郷土料理を満喫

夕食後は宮川邸に戻って反省会と称し本格的な飲み会で、これも楽しい語らいの場となりました。宮川農園の2階の4つの部屋に貸布団を持ち込み、さながら学生時代の修学旅行の気分です。最後の日は、午前11時まで葉摘み作業を行い、宮川さんからお礼にとりんごとぶどうのお土産を頂き、観光に出発。昼食では、小布施の竹風堂で栗おこわ定食を頂き、きれいに整備された小布施の中心街を散策、数名は「北斎館」や「高井鴻山記念館」を鑑賞、その後、須坂市の豪商の館で近世の正倉院ともいわれる「田中本家博物館」を鑑賞しながら散策し、帰路につきました。

宮川邸に宿泊して作業を行うという企画は今回が最後となります。来年はお嬢さん夫婦と同居されるとのことですので、今後当サークルとして宿泊施設を利用して継続するかどうかを話し合いたいと思っています。それにしてもこれまでの経験は参加者全員感動しており、りんごやぶどうを頂くときはまた違った美味しさがプラスされ、感謝しています。



ぶどう棚の下で休憩：りんご・ぶどうを腹いっぱい

会員の声

サークルから生きる力をもらっていますか！

民話の会・脳活サークル 薄井 文子



うれしいニュース

国内で2人目、2012年にノーベル生理学・医学賞を山中伸弥氏（京都大教授）が「iPS細胞作製に成功」として受賞した。今年10月1日、本庶

佑氏（京都大特別教授）が5人目の同賞受賞のニュースが流れました。

2013年「ところざわ倶楽部」第6期3月に公開講演会「iPS細胞とは」と題して、理化学研究所横浜の若い研究員であった長谷川由紀さんにご講演いただきました。そんなご縁もあって、今回の本庶氏の受賞は格別の喜びがありました。

気候変動による災害が各地に大きな被害をもたらし、いつでもどこでも起こりうる不安が渦巻く中、私たちに1つの大きな希望を与えてくれるとてもうれしいニュースでした。

10周年を終えて

10周年記念事業「生涯学習シンポジウム」と音楽朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」、さらに通年の文芸講座連続4回、サークル発表会も実施されました。驚異的な忙しさでした。素晴らしい1年でした。理事会と会員の底力とパワーが全開でした。10周年記念誌「ところざわ倶楽部のあゆみ」も発行されました。大変なご苦労をおかけしました。やり終えた達成感「人生の宝」になっていることと思います。この1年の事業を考えると、その先がしぼんでしまいそうに思えるほどでした。

未来へむけて

倶楽部所属のサークル数は次年度は15サークルです。加えて25期修了者で新サークルが立ち上がるかもしれません。その15サークルの活動をみると私独自の見方ですが、3つの要素に分かれます。

- ① 学びと地域貢献を進める7サークル
- ② 学びを中心に5サークル
- ③ 楽しみながら元気のパワーの3サークル

ところざわ倶楽部の設立目的にある「学びの先に地域貢献」が10年を経てこんなにも実行されています。「ところざわ倶楽部」はすごい集団です。他市に例を見ないほどでしょうか！

これからも市民大学修了生は年々増えていきます。そして「ところざわ倶楽部」で活動すると所沢市にとっての大きな高齢者パワーになることは間違いありません。所沢市に倶楽部の活動が確実に認知され、公的なバックアップがあってもいいように思います。

そんな中、少し辛口な感想です。

それはせっかく復活した6月の「文化祭」。中央公民館ホールにしては少なすぎる観客でした。出演するサークル以外の会員はほとんど来なかったように思います。とてもさみしくなって、来年は開催しない方がいいのではとその時は思いました。「文化祭」を大切な発表の場とするサークルがあります。無しにするわけにはいきません。全サークルに何らかの形で参加してほしいです。

そこで、私の個人的な提案を2つ考えました。別な考えもきっとあるでしょう。会員の負担を減らして5年、10年と継続するために。

1つは理事会を小さなものにする。毎月の理事会出席に加えて、倶楽部の開催事業が多い場合はその都度理事の負担になり体力的にも「なり手」がいなくなるからです。倶楽部主催の事業を絞り込む。

2つ目は事業を減らして浮いた費用をサークルの支援金に充てる。サークルそれぞれは会費を集金していますが、わずかなもので期待する活動にほとんどお金はかけられません。倶楽部会費のおおよそ半分をサークル活動支援として配分する。

私は所属する「民話の会」と「脳活サークル」の活動を体力の続く限り続けたいと思っています。この提案はところざわ倶楽部のこれからの考える1つの案として、そして家族を優先しなくてはならない女性の立場も加えて考えてみました。サークル活動はこれからも私の生きる力を養い、元気の源になるでしょう。

特別会員寄稿

文化庁文化交流使としての活動計画

作曲家 演奏家 笠松 泰洋



2018年度文化交流使指名書交付式写真

突然今年の年始に、文化庁から連絡がありました。私が文化交流使という立場に選ばれたので、2018年の4月から翌3月まで、1ヶ月以上、1年以内にどこでもいので海外に行って、文化活動をして来て頂きたいという依頼でした。私は11月中旬から翌年3月まで活動する予定です。

この制度は、年に5人ほど各分野で活躍する人が文化庁に選ばれて、海外で文化活動、文化交流をするというものです。どうして私が選ばれたのかは、全く分かりません。応募するものでもないのです。ただ、この数年で、ダンサー・振付家の森山開次さんや、琵琶奏者の桜井亜木子さん、能楽師の津村禮次郎さんなど、一緒に舞台を作った人が選ばれていたの、話には聞いていました。一般市民とプロと一緒に創る音楽劇やダンス作品、若手の音楽家が参加して、ベテランと組んで作っていく舞台作品などに多く関わっているの、そういった活動が評価されたのかもしれない。

訪問先は、世界にある日本の在外公館に誰に来て欲しいか調査をしてあり、リクエストのあった国に、出来るなら行って欲しいと言われました。私には27カ国から要請がありました。まだ行ったことの無い、興味のある地域に行きたいという気持ちもある一方で、ヨーロッパでもコンサートを開いてみたい気持ちも強く、少々欲張って、南米のエクアドル、アルゼンチン、チリ、ペルーの4カ国、そしてロンド

ンとウィーンでコンサートを開こうと思いましたが、全て要請のあった国です。私は作曲が本業なので、作った曲を音楽家に演奏してもらってコンサートを開くというのが、本来の仕事です。各国の音楽家と自作中心のコンサートを開き、自分の音楽を初めて会う音楽家がどう捉えるか、お客様はどう反応するか見聞きして、お互いに触発される面白い経験が出来るのではないかと思ったのです。

南米は、この1年ほどいろいろな仕事を一緒にやった作曲家でキーナ奏者の岩川光氏が、アルゼンチンを本拠地としているので、彼と一緒に（彼に助けてもらいながら）南米を回れたらと思い、弦楽四重奏とキーナのコンサートにしました。私に尺八と弦楽四重奏の作品があり、尺八を南米の楽器キーナに置き換えることで、南米の人に興味を持ってもらえると思ったのです。エクアドルでは音楽大学の学生のカルテット、ブエノスアイレスでは歌劇場のオーケストラの団員、ペルーではオーケストラの若手の演奏家と、いろいろなタイプの方々と一緒にリハーサルをして、コンサートを開くことになっています。

ロンドンまではそのスタイルで、そして、最後に行くウィーンでは、2011年に東京文化会館などで上演した室内オペラ「人魚姫」を上演しようと考えました。初演で人魚姫を歌ってくださったソプラノ歌手の中嶋彰子さんがウィーン私立音楽芸術大学（MUK）の教授をなさっているの、相談したところ、大学のオペラ科にスコアを送り、図ってくれました。結果はやりましょう、ただしその条件は、英語のオペラにすること。そうすれば今後、この作品が世界で上演されるチャンスが出来るし、そういう作品であればこそ、大学の学生が参加する意義があるということでした。まさに願ったり叶ったり。目下、英語の歌詞と格闘中です。想像以上に大変な作業になりましたが、この先、自作のオペラやミュージカルを海外でも上演していけるようになりたいという野望がありますので、またとない修行・経験を積む場となっています。

所沢市民大学で音楽のクラスでも、この文化交流使の経験を活かせたらと思っています。

「戦争と平和！」
第5回

19歳で逝った義兄

高瀬 浩衣

「この人はだあれ」と幼い孫は仏壇に手を合わせて写真を指差して尋ねました。「19歳で戦争で亡くなったじいじのお兄さん」「お兄さん？」不思議そうに聞き返した孫も19歳になりました。凛々しく立つ写真は江田島海軍兵学校を昭和19年3月に卒業した時の義兄です。夫は15歳も年が離れていたため兄の記憶はないと言いますが、両親と富山から汽車に乗り江田島まで兄とのお別れの面会に行ったことの微かな思い出はあるようです。



義兄の辞世の句

亡き両親は仏壇の引き出しに義兄の写真、手紙などを保管し、また親同士が決めた許嫁が描いた油絵の義兄の肖像画、床の間には辞世の句を掛けていました。「桜咲く国に生まれて散る春を迎えて嬉しいや努めん」19歳になったばかりの若者が南洋に向かう前に死を覚悟してこのような辞世の句を残しています。

次の文は義兄と海軍兵学校の同期の方の手記より。

【昭和16年12月1日、第73期生として憧れの江田島の海軍兵学校に入校、その1週間後に大東亜戦争の開戦を迎えた。3年間の教育を2年4カ月に短縮されて血の出るような猛特訓を受け、昭和19年3月22日に卒業した。勇躍第一線にはせ参じた時は戦争も末期の頃でした】

義兄も第73期生として卒業。19歳になったばかりでした。大日本帝国海軍の水上機母艦、航空母艦「千歳」の艦長付きの少尉として任務につきフィリピン沖に向かいます。

【千歳は昭和19年6月マリアナ沖海戦に参加。次いで10月25日のレイテ沖海戦にも参加したが米空母艦載機の攻撃を受けて撃沈された。艦長以下903名の乗員が命を落とした(千歳の歴史より)】その中に義兄もいました。

巻紙に筆で書かれた手紙が残されています、「私儀既に艦に慣れ専心ご奉公致居候間何卒ご安心ください〜

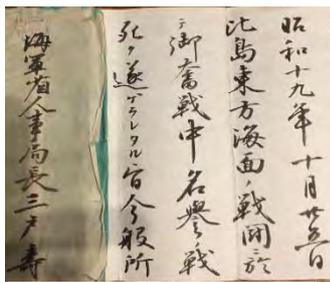


義兄から家族への手紙

書かれていました。また海軍の印のある葉書では「いろいろ面白い話がありますが手紙は具合が悪いです。命が長かったら話をしませう」

話をする機会もなく10月25日に艦とともに命を落としました。

昭和20年1月26日付けで海軍省局長からの戦死広報が届いています。19歳の第1子を亡くした両親の悲



戦死広報

しみはいか程であったかと思えます。当時の日本には想像を絶するほどの数の家族が同じ悲しみを持ちながら生きてきたことでしょう。

6月23日沖繩終戦慰霊の日女子中学生の凛とした自分の言葉での「生きる」の朗読には心打たれました。

みんな生きていたのだ・・・家族がいて、仲間がいて、恋人がいた・・・それなのに、壊されて、奪われた。生きた時代が違う、ただそれだけで。無辜の命を。【むこ・何の罪のない事】

あたり前に生きていた、あの日々を・・・ 私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを・・・

今と一緒に生きているのだ、だからわかるはずなんだ。戦争の無意味さを、本当の平和を。頭じゃなくて、その心で。戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。

平和とは、当たり前生きること。・・・

戦争の記憶のない我々ですが子や孫たちにはこの詩と共に我が家の戦争史を伝えらえる、よい機会かと思ひ記しました。

サークル活動報告

シニアの交流の場へのお誘い

所沢シニア世代地域

デビュー支援の会 鮫島 勝二

「地域デビュー支援の会」では「静」と「動」の活動があり「静」は地域デビューのPR、「動」は「チアダンスチーム：SP」です。最近ではチアダンスチームが目立つ状況ですが、地域デビューも静かに活動しています。活動概要を紹介します。

【地域デビュー支援の活動】 昨年末から下記の事項等について活動しました。

- ◆講座：市民活動支援センター・社協共催「地域デビューマッチング」講座講師担当(12月)。
- ◆シニア世代なんでも塾:「昭和のお正月」(2月)、「高齢者の健康と介護」講座(5月)。
- ◆活動展示紹介：市役所市民活動見本市(3月)、市民活動支援センターまつり(9月)。



「シニア世代なんでも塾:昭和のお正月」(久米の歴史編纂の会)

◆市民講座紹介：2018年版シニア向け市民講座一覧発行(4月)・公民館等へ配架・配布。

「地域デビュー」という言葉は中高年者の生きがいづくりとして一般化しましたが、シニアのとじこもりの方への直接的な働きかけは大変困難です。埼玉県でも知事が「きょういく：今日行くところ」「きょうよう：今日の用事」「ちょきん：貯筋」を呼びかけ、林家たい平さんが「埼玉県地域デビュー楽しみ隊」隊長に就任し活動の展開を図っています。私たちは、これから「シニア世代なんでも塾」で市政に関する勉強会を通じて地域デビューの大切さを呼び掛けていきます。

【チアダンス スマイルパイレーツ (SP) の活動】

「キラキラ輝くシニア世代のため」の心と体の健康活動です。活動内容は2月号で紹介させて頂きました。若返りのため皆様もぜひチアダンスにご参加ください。

映像で見た環境問題

地球環境に学ぶサークル

中島 峯生

定例会では、DVD等、キュメンタリーを鑑賞した。「不都合な真実 2」では地球温暖化を抑えるため、「パリ協定」提携までの背景と調整に凄いものがあった。世界が再エネの活用で脱炭素化への動き等、地球の危機を知って貰うため購入したDVDを貸し出すことにした。また、上映会を倶楽部で設けて貰い、多くの参加と感動を得てもらえた。



DVD鑑賞時メンバー

川越スカラ座での映画「武蔵野」では、三富地区での循環農法によって、粒子の細かく均一な土壌が深く作られている事を知った。録画「小泉元首相が生出演！原発ゼロ」は、脱原発が熱く語られ、共感するものであった。

NHK「環境・レイチェル・カーソンの警告」は、レイチェル・カーソン(1907~1964)米・ペンシルベニア州生まれ、動物学専攻、海洋生物研究所などで野生生物の情報収集で本当の自然を知っていた。1962年「沈黙の春」を発表し、DDTを始めとする農薬など化学物質の危険性を鳥達が鳴かなくなった春という出来事として訴えた。この訴えを中心にDDT、PCB等人工化学物質の蓄積、環境ホルモン、人工染料、DES、生殖器異常、他20世紀に人間が自然を変えた汚染した環境が紹介された。自然の許す範囲での農薬の使用、負の側面、長期的な影響等を考慮しないと「未来の子供達は私達を許さない」と考えさせられた。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 (水上 俊彦 2922-6420)
11月16日(金)13:30~15:30 ふらっと2F
秋草学園短期大学教授 及川道之先生の古事記上巻
第3回解説(6回シリーズ)(9月~2月)
12月14日(金)10:00~12:00 中央公民館6号室
古事記第4回解説
2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)
11月21日(水)13:30~16:30 中央公民館
定例会:島川会員によるトルコ情勢の報告会
12月19日(水)13:30~ 中央公民館
定例会:来期の活動予定などの打合せ
3. 活いきシニア福祉の会(川上 紀春 090-5573-2548)
11月28日(水)10:00~13:00 小手指さくら会館
「二人の桃源郷」ビデオ鑑賞(山で暮らす一組の夫婦の25
年にわたるドキュメンタリー)、新入会員歓迎昼食会
12月26日(水)13:00~15:00 生涯学習推進センター
4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要です)
11月13日(火)プッチーニ歌劇「トスカ」
シノーポリ指揮メロポリタン歌劇場、ドミンゴほか
12月11日(火): マスカーニ歌劇「カヴァレリア・
ルスティカーナ」ミラノ・スカラ座 及び「総会」
いずれも 13:15~ 中央公民館3階 8・9 学習室
5. 食を通して所沢を知る会(園田 ヒロ子 090-4005-1882)
11月21日(水) 8:00 所沢駅東口郵便局前集合
「笠間市芸術村と牛久シャトーを訪ねる」バス旅行
12月4日(火) 10:00 ふらっと
定例会「来期の活動計画」打ち合わせ・忘年会
6. 地域の自然を考える会(岩本 賢次 2923-9324)
11月23日(金・祝) トロ収穫祭に参加
11月27日(火)10:00~12:00 12号地生保全整備
作業:落ち枝整理等。作業ご希望の方、北中グランド西側の
トロ12号地に、参集ください(事前申し込み不要)
7. 地球環境に学ぶ(中島 峯生 2928-1161)
11月20日(火)9:00~11:00 新所沢東公民館 研修室
定例会: 環境持寄り学習、2019年度活動計画検討
12月18日(火)15:00~17:00 新所沢東公民館 研修室
定例会: 環境持寄り学習*DVD「不都合な真実」貸します
8. 所沢シニア世代地域ニュー支援の会(田口 元也 090-9820-5668)
11月10日(土)、11日(日)9:00~16:30 中央公民館
第28回中央公民館まつり チアダンス実演参加
11月28日(水)13:15~15:00 中央公民館 定例会
議題 市政入門出前講座・シニアサロン企画 その他
9. 所沢の自然と農業(稲村 洋二 2992-1751)
11月13日(火)柳瀬荘黄林閣散策道整備ボランティア
11月15日(木)高尾山ハイキング
11月22日(木)13:00 定例会 新所沢公民館
11月25日(日)12:00 市民大学ファーム収穫祭
会場:陽子ファーム

10. 野老澤の歴史をたのしむ会(小川 雅愛 2907-9476)
11月15日(木)8:00 所沢出発 栃木バス旅行(蔵つくりの
町栃木、下野国府・国分寺史跡、太平山を巡る)5:30 帰着
11月29日(木)9:30 西武球場駅集合~14:00 終了
トロの森散策とみかん狩り、昼食 早大食堂(予定)、さつま
いも掘りも実施(希望を募ります)
 11. ドラマティック・カンパニー(高橋 信行 090-9393-6238)
11月10日(土) 10:00~12:00
コンセールタワー 2F 「ふらっと研修室」
「オセロ」を読み進めます
 12. 懐かしの映画・鑑賞会(二上 拓夫 080-1250-6151)
11月13日(火)10:00~12:30 西新井町会館
洋画「ローマの休日」(53年)ご存知! オードリーのご代表作
11月27日(火)10:00~12:30~14:30 西新井町会館
邦画「居酒屋兆治」(83年)東宝 高倉健・大原麗子
⇒ 年度纏め会 一年の総会 開催 イベントも発表!!
 13. 脳活サークル(加曾利 厚雄 2939-2308)
11月13日(火) 9:30~12:30
所沢市保健センター 3階 講話・304会議室
調理実習・調理室 持物・エプロン、三角巾、手拭き
——シニアに優しい「健康食教室」—— 村野まゆみ氏
 14. 傍聴席(石堂 智士 2947-0835)
11月19日(月)14:00~16:30 新所沢東公民館 学習会
「市議員選挙への計画立案」自由討議、今回は市議員
に対するアンケート調査を実施、今回は?
12月17日(月)「市議員選挙への計画実施」
 15. 民話の会(仲山 富夫 090-3902-0283)
11月16日(金)定例会 10:00~13:00
こどもと福祉の未来館 ボランティア室2号
「とんぼの宿り木」「絵で見る昔の所沢風景」読み合わせ
11月27日(火) 牛沼小学校三年生と民話お話し
- 理事会報告**
- 10月15日(月)第10回理事会を開催。
◆佐藤会長の原案をもとに11期を総括し、12期の活動方針
案を検討しました。
10月25日(木)25期生修了式後、入会勧誘活動実施。
◆11月20日(火)総会。13時受付開始。ミュージ管理棟。
昨年同様同期会形式で懇親会を開催します。
◆来期年会費等の事前集金にご協力をお願いします。
◆地域の自然と脳活サークルにおいて来期理事が不選出と
なり、サークル側の連絡窓口を決め、理事会との情報やり取り
をすることが承認されました。
- 次回理事会 11月12日(月)生涯学習推進センター102号

みんなの広場 第8回 所沢の自然と農業 稲村 洋二

柳瀬荘黄林閣の散策路整備ボランティア

10月23日第一回柳瀬荘の散策路整備ボランティアに参加した。当日は我々のサークルのメンバーを中心に17名が作業し柳瀬荘黄林閣の広大な屋敷林の中の東山地域の散策路の整備を行った。

柳瀬荘の屋敷は黄林閣を中心として西山と東山に分かれ、西山には本宅から続く茶室があるので比較的整備されているが東山は手入れがされておらず雑木の太木と竹林で鬱蒼としている。先日の台風で太木が何本か倒れ、折れた枯れ枝が道をふさいでいた。まず枯れ枝・竹を集め、倒木の処理と下草刈りを行った。2時間の作業であったが作業をした地域はこれまでとは違い大変きれいな風景となった。ボランティアを行うに当たっては、柳瀬荘の管理元である東京国立博物館と我々のサークルで1年間の覚書を締結した。月1回の作業であるが来年の春ごろにはきれいな散策路が姿を見せるのではないかと楽しみにしている。竹林のタケノコも楽しみである。



ボランティアメンバー



むさし野俳句会（三十年十月） 林芙美子記念館吟行作品抄

蜘蛛の囿のかかる枝折戸半開き	荒幡千鶴子	歯切れ良き若き芙美子の声さやか	高梨 千代
竹の皮剥ぐように生き芙美子かな	飯泉 陽子	客間には実篤の絵や柿熟るる	高橋三加子
河べりに文士長屋や彼岸花	井出 昇	風琴の聞こえてきさう秋の庭	高光 泉
まめ柿の満艦飾に光りけり	海老澤愛之助	放浪の終の住処や秋日和	利根川啓一
記者部屋に琅玕映ゆる秋日差	粕谷のぼる	サフランや楽しきことの多かりき	中嶋 弘子
秋の日のピアノは蓋を閉ぢしまま	河瀬 俊彦	初紅葉座り机の京間かな	中村 直子
姿見や芙美子を語る秋の声	小林 貞夫	金風や女の一世坂多し	橋本 佑子
床板に秋の木洩れ日映りけり	小林 典子	猫足の小間の座卓や秋日影	平栗 彰子
奥の間に木洩れ日揺るる竹の春	佐藤 八郎	過去に馳せ小菊を添える道祖神	宮本 信生
実さくろや芙美子の声の勝手より	白神 恵子	菊あふれ芙美子の庭の道祖神	鈴木 征子



《編集後記》

10月は1日に約1分の割合で日の出は遅くなり、日の入りは早くなる。秋の『日の短さ』は、諺で言う通り「秋の日は釣瓶落とし」になってくる。落ち葉は緑から黄紅に変化し、紅葉前線は北から南へ、山頂から山麓へと移動する▼秋も深まって野山の紅葉が美しくなった11月のある日、急に北よりの冷たい風が吹いてきて木の葉を枯らしたり、ふき散らしたりすることがある。「木枯らし」である▼木枯らしは、木の葉を枯らしたり、散らしたりするばかりでなく、高い山々に雪を降らせたり、日本海がわの地方に「しぐれ」というにわか雨や、にわか雪を降らせたりもする。埼玉も間もなく木枯らし1号が吹いてくるだろう▼秋の夜長と木枯らしの吹くこの時期に「ところざわ倶楽部第12期総会の案内」がきた。新しい年度（第12期）に入る。さて、「広場」。11月9日、木枯らしの風音に負けず編集作業に入る。

(鴨田記)

「広場」問合せ 玉上 佳彦 (090-2497-1076)

川柳(三六) 作品発表 中島峯生選

課題 「幸い」

増えたしわ数える相手前に居る
 少しだけ貯金できてる妻の腕
 手をつなぎ幸せ求め歩いたな
 幸せを求め過ぎると遠い道
 ボケが来て幸も不幸も感じない
 褒めてやる幸い喜寿を掴んだぞ

「自由句」

時々ね闇魔様へとわく疑問
 別に寝て朝のあいさつ生きていた
 目が覚めて動かしつみる手足口
 名子役増える仕事に親ふとる
 小型機で海の上ゆく肝だめし
 お茶の子もさいさい食べりや三皿目

次回(第37回) 課題「大学」そして「自由句」

締切り日: 11月20日、担当中島まで、どなたでも

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp FAX04-2928-1161